

「オリセット®ネット」40万張りをミレニアム・ビレッジへ寄付
～ミレニアム開発目標の達成に向けて協力～

住友化学は、コロンビア大学地球研究所、国連開発計画（UNDP）、米国の非営利団体「ミレニアム・プロミス」が中心となって推進している「ミレニアム・ビレッジプロジェクト」に協力し、アフリカの全ての「ミレニアム・ビレッジ」に対し、マラリア予防用の蚊帳「オリセット®ネット」を、2010年から2011年の2年間で新たに40万張り（200万ドル以上に相当）寄付いたします。

今回の寄付は、2006年に行った33万張りの寄付に引き続き行われるものです。「ミレニアム・ビレッジ」では、「オリセット®ネット」の普及が進んだことなどにより、マラリア感染率が低下したことが報告されており、40万張りは、前回配布された「オリセット®ネット」の更新用として活用されるとともに、未使用の家庭にも配布される予定です。

現在、世界では、年間約2.5億人がマラリアに感染し、約100万人が命を落としています。その9割はアフリカで発生し、なかでも5歳以下の子供が多く犠牲となっています。就業や就学の機会喪失による経済的な負担なども大きく、アフリカがマラリアにより被る経済損失は、1年間で120億ドルとされ、マラリア対策は、貧困撲滅のためにも必要不可欠といえます。

「オリセット®ネット」は耐久性に優れ、練り込まれた防虫剤により防虫効果が5年以上持続する点が特徴です。マラリアを媒介する蚊から経済的かつ効果的に身を守ることができるため、世界保健機関（WHO）などから使用が推奨されています。増大する需要に対応し、生産能力の増強を進めてきた結果、現在、全体の年間生産能力は6,000万張りに拡大しています。そのうち、タンザニアでは、生産能力が2,900万張りに達し、約7,000人の現地雇用が創出されていることから、地域経済活性化にも貢献できるものと考えています。

「ミレニアム・ビレッジプロジェクト」は、貧困地域が自立的に発展していくために必要な基盤づくりを行う取り組みで、「ミレニアム・ビレッジ」として指定されたアフリカ10カ国の約80の村で、食糧生産、感染症対策、飲料水や電力の確保に関する総合的な支援が実施されています。「ミレニアム開発目標※」達成のための実践的な取り組みとして期待されており、日本をはじめとする各国政府、国際機関、基金、民間企業などがプロジェクトパートナーとして協力しています。

住友化学は今後も関係諸機関との連携を図りながら、事業を通じてアフリカの貧困撲滅への取り組みを支援してまいります。

※ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals：MDGs）

ミレニアム開発目標は、国際連合が2000年9月に採択した国連ミレニアム宣言にもとづき、貧困、教育、環境、人権など8つのテーマについて、達成すべき目標とアクションプランを定めたものです。

以上